

市民自らの政策を持とう！

第 11 回個人演説会

討論記録

日時 2014 年 1 月 25 日 (土)
13:30-16:30

会場 岩国市福祉会館

参加者 13 名



この記録は下記のブログに掲載されます。

<http://blog.goo.ne.jp/simin13401seisaku>

文書作成の方針について

河井 まず「原発についての提言」の文書を作成するうえでのポイントをきめておきたい。私は、原発についての一般市民としての考えを、政治家、および一般国民に理解してもらうための「提言」とすべきだと考える。したがって、原発専門家や政治家だけでなく、一般市民にもなじめる文体としたい。送付先は、関係諸大臣、中国 4 県の国会議員、県知事、市町村長、および一般国民とする。「まえがき」と「結び」は「です、ます」の文体にした。

全体のタイトルは「原子力発電に対する一般市民からの提言」とし、各提言ごとにサブタイトルをつける。

全体の著者名は「市民自らの政策を持とう会」とし、文書末尾に「起草者 南部博彦」と記載し、そのあとに討論参加者名と住所を 50 音順に記載する。

紙サイズは A3 判を二つ折りにした A4 判、4 ページ、またはそれ以上とする。紙質はアート紙、活字は 14 ポイントとする。印刷部数は 200 部、あるいはそれ以上とする。

こういう方針でいいかどうか、ご検討いただきたい。

(全員了承)

原子力発電に対する一般市民からの提言 自由討論

「提言」全体について

稲生 それでは提言の全体についてご意見を伺いたい。そのあと起草者の説明を聞いてまともていきたい。まず一般市民として提言するということに皆さんには抵抗があるか。

藤川 提言ということだから、広く皆さんに知ってもらおうということで、小冊子を作り、政治家などには贈呈、一般の方たちには買っていただくというのがいいのではないか。

稲生 一斉に公開し、同時に一般に配布する。

井原 要請書ということではない。

南部 私の考えは、あくまで提言のたたき台だ。6項目に分けて、こういうことを中心に考えてはどうか、ということなので、文章論の話はみんなディスカッションして、出来上がったところで決めればいい。

藤村 南部さんの文書はよくできていると思う。専門的なことはわからないが、「いかに政府が原発をすすめてきたか」がここには書いてないようだ。2000年に地球温暖化防止会議で、原発は温暖化防止に役立つといったのは、日本を含む3か国だけで、日本の姿勢は非難をあびた。原発推進のためには、制度をかえ、法律をかえ、理不尽な方法でやっている。上関原発でも随分法律を変えた。そして偽の辞職願いを作るまでして、土地を売らない官司を変えた。それに選挙のときは「電気代があがる」などと言ってきた。どのようにして原発設立を進めてきたかについてちょっと書いてあるといいと思った。

稲生 それは大切なことだが、そこまで書くと大変な分量になるから、提言のなかには述べにくい。

藤川 提言5の「原発政策」のところでは少しのべてはどうか。

井原 序文の最後から原発再稼働の前あたりにちょっと歴史的な経過をのべ、そういう経過がありながら再稼働をしようとしている、ということをごここで触れてみてはどうか。

稲生 前提となることに了解がいただければ、続いて個別に内容などの話を進めたい。それでは南部さん、たたき台のご説明を。

起草者の趣旨説明 南部博彦

過去の経緯をふくめてお話ししたい。去年の12月22日に「原子力発電に対する一般市民からの提言」という題で議論した。そのとき私個人としての提言を行い、自由討論をして頂いた。わたくしがしゃべったのが13ページ、みなさんで討論したのが10ページ。今からお話しすることは、少しわかりにくいかもしれないから、前にこういう話をした、ということをご付け加えながら、お話ししたい。

前回、提言を6項目ぐらいにわけて纏めたらよからう、ということで意見がまとまった。それにしたがってブレークダウンした。提言の「まえがき」と「結び」は、私が個人的にこう考えているよ、というのを付け加えたものである。「結び」にも私の意見がでていいる。読みながら説明する。

前文 (よみあげ) もうちょっと付け加えるほうがいいかとも思うが、私はこう書いた。

提言1 原発関連情報の公開について

1 私が言いたいのは、「真相究明がなされたであろうけれども、誰も謝らないし、だれの責任だともいわない、いったいなぜ事故がおこり、どういう結果になったのかということも公開されていない。」ということだ。けしからん話だから、全面公開しなさいということだ。

2 環境汚染の現状。どれぐらい被ばく線量があると健康に被害があるのか、というのはいろんな説がある。容認派はレベルをあげ、それなりに上限値を下げる、ということで、健康被害にたいしてもはっきりした尺度が科学的な根拠にもとづいて提示されていない。これは非常に大切なことだ。「全面公開すること」。じつはこれだけ言いたいわけだ。要するにいろんな情報があるが、情報の開示が不十分だ。このまえの話のときも、すでに黒塗りのデータがでてきたりして、情報隠しがおこなわれている。提言の情報についての表現は、まだ弱いと思う。これでは足りないと思う。

提言2 原発事故の後処理について

みなさんも新聞などで聞いたと思うが、福島第一原発の汚染水のデータは時々刻々変わって、どうももれていると断言していいだろうと思う。汚染水処理問題、これをいったいどういう風にやっていくのか。どうかたづねるのか。実施計画をきちっと作ってやって公表すべきだと思う。

放射性物質。ちょっと難しい表現だが、放射性物質で重金属のものは、アルプスという装置をつかえば吸着除去できる。ただトリチウムは水素と同じで、ベータ線をだす弱い放射性物質だが、延々として放射は続く、これがトリチウム。水とおなじで、 H_2O のHのひとつがTにかわったもの。まったく水と同じ。要するに除去できない。どうするか。大きなタンクを作って蓄えるということになっている。とてもじゃないがそんなことはできない。アメリカは内陸に原子炉があるから、森林に持って行って噴霧して、植物経由で空気中に蒸散させて希釈するという方法でトリチウムを処理している。福島第一は海岸にあるから、うすめて海に放出するしかないだろうと私は思うのだが、これにかんしては一切どうして処理するという政府見解はでていない。大きな問題で、はっきりすべきだと思う。

廃炉は東電の責任でやらせるとした。しかし遅々としてすすまないの、国がみこしをあげた。どこに組織を作ったかということ、経産省「原子力損害賠償機構」というのがある。ここで除染にかんする費用とか避難の費用とかを保障しているが、それに廃炉部分を合体して、ここでやっていくという。やむなくここに突っ込んだのだろうが、賠償の問題と廃炉の問題を一緒にやれるものではない。お粗末な廃炉対策を国がとっている。「国際廃炉研究開発機構」というところに、山野さんという京都大学の先生がおられるが、とんでもない話だと言っている。廃炉にかんしては、被害が大きいのだからのちにもう一度述べる。廃炉については東電ときりはなして、廃炉専門の部門を作ってきちっとやっていくことが必要だ。福島県民にとっては、これがないととてもあの付近には住めないということになる。

今1号から4号までつぶれていて、5号6号は生きている。本来は1-4号は東電からきりはなして国が管理するなりすべきだと思うが、経産省はその責任をとりたくないとい

うことなのか、東電内の分社化でかたづけるということになってきている。これも大きな問題ではないか。

この提言は、項目を書いただけで、その裏にはいろんな問題があって、それを提言にどう織り込んでいくか、工夫がいるところである。

提言3 放射性物質の処理

もともと原子力は絵に描いた餅だったのだが、原子力発電所でウラン燃料をもやして、使用済みの燃料ができる。これからプルトニウムを抜いて MOX という燃料にする。これを高速増殖炉の「もんじゅ」にかけて、プルトニウムを自己生産しながらぐるぐるまわすという、絵に描いた餅では非常にうまくいくようになっている。一番問題は、MOX を使ってやる「もんじゅ」だが、今まで何か月しか動いていない。前に申し上げたが、熱媒体に金属ナトリウムを使うという、化学者からするととんでもないプラントになっている。「もんじゅ」は当然のことながら、リサイクル計画そのものをあきらめるべきだということで、核燃料サイクルからの撤退と書いた「もんじゅ」をやめろということだ

資料の一番最後に参考文献がある。核燃料サイクルを考えるというシンポジウムが『朝日新聞』とプリンストン大学の主催でおこなわれた。そこで5つの提言がおこなわれた。そこに項目だけをかかげた。日本が所有しているプルトニウムは44トンある。アメリカとフランスに32トンあずかってもらっている。このプルトニウムは原子爆弾の原料になる。9トンのプルトニウムがあると1000発の原爆ができるだろうといわれている。それほどのプルトニウムを日本は持っている。なぜプルトニウムを持てるかということ、日本は平和利用ということで、大目にみてもらって持つことができた。

イランや北朝鮮には、原子爆弾の原料になるものをいかにつくらせないようにすることで、今さんざんやっているところだ。日本は1000基分の原爆の原料をもっているということになる。これは由々しき問題だ。一番大きいのは安全対策だ。セキュリティが不備だということ。じつは再処理工場もなにもかもすべて六ヶ所村に置く。そうすると六ヶ所村というこの狭いところへ再処理工場などがあつまってしまう。1発爆撃されて問題がおこったとしたら、收拾がつかなくなる。だからプルトニウムの保有を最小限にすることが、提言の第一になっている。英国にあるジムアストンのプルトニウムの処理については、英国と交渉して日本はひきとらないことにしたらいい。フランスに、抽出したプルトニウムとウラン燃料とを混ぜた MOX 燃料の製造を依頼している。この MOX 燃料は、もんじゅの燃料になるのだが、一部の原子炉でも燃料として使うことができる。MOX 燃料は、プルトニウムを抽出して、抽出ウランに混ぜて使うわけだから、燃料コストからいっても、べらぼうに高い燃料になる。だから MOX 燃料は、現実問題としては作るべきでないという。そして、フランスから MOX 燃料を輸送する場合は、原子炉で使う分だけにしなさい、日本で保管するのはやめなさいという提案だ。

3番に米国とともにプルトニウムの処理方法を研究しなさいということだが、44トンのプルトニウムをどう処理するのかという、大きな問題だ。

それから提案の2だが、各原子力発電所に乾式貯蔵施設を設置すること。今は原子力発電所の中にプールをおいて、ひやししながら保管している。本来は六ヶ所村にもって行って、

再処理工場にかけてプルトニウムを抽出するというプロセスになるのだが、当然時間がたてば、使用済み核燃料の発熱量は減っていく。以前から保管し、発熱が収まった使用済み核燃料は、乾式の貯蔵施設をつくって保管すれば、少しは安全性が担保できる、というのが提言の2。

3 日本のセキュリティはプアだ。六ヶ所村にすべてをまとめてやろうとしていることをいう。

4 高レベルの核廃棄物をガラス固化しなさい、ということ。

5 使用済み核燃料を地下深く貯蔵して長年にわたって保管する。これが一番の問題で、どこに埋めるのか。この問題に何も手をつけない状態で、再稼働、再稼働といっている。トイレのないマンションといわれる所以だ。このシンポジウムに参加した5名の専門家の名前をその下に書いておいた。日本にプルトニウムが多量に存在するという事実は、安全性（セキュリティ）の点からも大問題だ。それを提言3に書いた。

提言4 被災者への補償について

政府の腰がひけているというか、ある部分は東電に任せて、金は東電にださせるシステム。何か中途半端だ。

住民の意思を尊重した方策が必要。どこかに移住しようかとか、もとへもどろうかとか、住民が思い悩んでいる。そういう心情を理解すべきだ。誰のために避難させたのか、何のために避難しているのかということを考えるべきだ。事故をおこしたために避難を強いているのだから、それにたいする血のかよった方策を講ずるべきだ。機械的な地域区分で、ここは絶対帰れないところ、ここは帰っていいところという区分がなされている。機械的に線をひけば、放射能の汚染の度合の高いところは帰れない、中ぐらいのところは除染をすすめながら経過をみる、それ以外は帰れるという3段階にわかれる。地図上でぎりぎりのところはどうしたらいいのか。もどってもいいよ、といわれても、隣は線引きがあるから、戻れない。そんなところにすめるのか。すめるはずはない。まったく絵に描いた餅だ。すんでいる人たちの身になって考えるべきだ。機械的な地理区分は撤回しなければならない。

提言5 原発政策について。

前回の自由討論で、一番問題になったのは、再稼働を認めるか認めないかというところだ。これにたいしては二通りの見方があって、これをきめることが今日のディスカッションの一番大きなテーマだ。いろんな経済的な条件を考慮して、再稼働を許していくということを私は提案した。小泉さんは即原発ゼロ。あれもひとつの考えかた。どちらにするかは、ここで徹底的に討論してきめなければならない。

1（読み上げ）民主党政権のときは脱原発ということを行った。政府の施策に継続性があるなら、党が変わっても、前言を撤回するには、それなりの理由をつけて国民に説明する必要がある。原発存続の是非を、できれば国民投票にかけるべきだ。今、都知事選挙にこの問題が提起されたのはよかったと思う。10分の1の人口でどういう結論になるのか。それだけの要因で決まらないから、それで100%の回答がでるとは思えない。

再稼働を前提とした場合は、原子力規制委員会の立場の中立性、これが大きな問題になる。委員会は身をただして、政府と無縁になるようにしてきたが、最近政府の塩崎さん、自民党の議員さんだが、規制委員会委員長に意見をいったりしている。厳につつまねばならないことをはじめている。原子力規制委員会をコントロールしようとするのが感じ取れてしかたがない。審査を公正におこなうために、政府、電力会社との接触を禁止する。委員に中立の人をえらんでいく。それに徹してやらねばならない。

よくやる手だが、有識者会議をつくって、自分の息のかかった人をだして、委員会を構成して、有識者の結論がでたから、自分の意見ではないような顔をして、結論を出していくというやりかた。目に余ることをしている。それがここでも行われる可能性がある。原子力規制委員会の中立性は非常に大切なことではないか。

3 いまの審査は書類審査。テレビをみていると、申請にこんな厚い書類を委員会にだしている。官庁のくせで、何かあると膨大な資料を要求する。書類審査が主なことになる。書類審査だけではだめだと思う。安全対策のソフト面も審査基準に加えて、ハードはどうなっているかだけでなく、どういう運転をするのか、どういう対策をとっておかねばならないのか、というところまで、審査基準をひろげてきめるべきだ。きまっているかどうかは知らない。規制委員会の審査基準がどうなっているか、どういう項目で、どこまで調べようとするのかわからない。公開してもらって、われわれが勉強できるようにしてほしい。審査基準は厳格でなければいけない。

原子力発電所の輸出の禁止。これは事故補償などを考えたらやめるべきだ。アメリカのどこかの原発が日本の機器メーカーのトラブルで廃炉に至ったという。そのため、廃炉費用の補償が要求されている。国際的基準でいうと、実際の製造者にたいする責任が厳しく追及されるから、原発を輸出してフォローしているけれど、輸出先は技術的にプアなところが運転するわけだから、きちっと運転できるのか、もし事故が起こったら、その補償請求が日本にくることになる。そこを考えても私はやめたほうがいいと思う。

再稼働容認条件の明確化。原子力規制委員会の承認にまかせる。政府はそれに悪のりして承認している。それではいかん。政府が再稼働の責任を負うべきだ。再稼働をやると、過去 40 年廃炉という基準があったが、無視されそうだ。40 年廃炉にしたばあいにどうなるか、ということ、さきほどの参考資料に載せてある。2014 年、現在全部とまっているけれど、54 の原発がある。これを 40 年廃炉にした場合、残る原発はどうなるのか。(グラフを説明) 2045 年には原発はゼロになる。40 年廃炉を原則として、新增設はしないということ、これをきめれば、おのずから 30 年後には原発はゼロになる。

30 年かけてエネルギー転換をやればいい。54 の原発はとても全部動くわけがない。地質学的にやめる(活断層)などもいれると、もうちょっと少なくなる。だから再稼働を許せる原発は動かすというのもひとつの方法としてあるのではないか。調べてきたことを補足すると、いま 10 の原発の再稼働の申請がおこなわれている。だいたい新しい原発が再稼働を申請している。このへんはのちほどみなさんに徹底的に議論していただきたい。

再稼働容認条件の明確化の下の方にあるが、自治体の首長だけでなく、50 キロの圏内の住民の意思を確認し、その承認をとりつける。これをつけるべきだ。これを書けば再稼働できない。住民の承認をとりつけるぐらいに安全性を確認した原発でないとならな

ない、という激しい縛りになる。

人材の確保と書いた。事故処理にあたる作業員。うわさによると、作業員を大阪のドヤ街の日雇いをやとって送り込んで使っているというのが実際におこっているようだ。そんなことをしているのか。放射能は見えないものだから、知識のない人間だと知らぬ間に被ばくしてしまう。そういうことをしているのか、という人道的な問題も含めて、きちんとしなければいけない。今福島事故の後始末に何千人もの人が現場にはいつているようだが、それをどうして確保するかという問題だ。東電としては頭の痛いことではないか。40年廃炉にすると、5年から10年のあいだに30もの原発を廃炉にしなければいけない。どうやって廃炉にするか。廃炉技術を徹底的に勉強してやるとなると、これだけでも大きなプロジェクトになる。廃炉に関する研究機関をつくり、廃炉技術者を養成することから始めなければならない。

提言6 エネルギーと原子力に関する国際協調について4項目かいた。汚染水対策や廃炉技術をやってビジネスにしたらいけないか。

結び（読み上げ） これは私なりのコメントである。

稲生 文書の形式、示された提言に追加するもの、説明を加えたいことなどのご意見があれば出してほしい。表現も一般の人にもわかるような文章にしたい。

「まえがき」について 原発再稼働のことなど

平岡 「再稼働容認の条件の明確化」の箇所。「政府が再稼働の責任を負う」と書いてあるが、どういう責任をおわせようとするのか。また、「原発の新增設は行わない」というところ、これはわれわれも言ってきたこと。どこから「新」なのか。安倍首相は大間原発や島根原発3号機は彼にとって新ではない、建設中だから。動かしているのだ。上関原発はどうかというと、彼は一切言っていない。かつて許可を得て進行していた。40年廃炉ということだと、島根はこれからうごきはじめたら、「30年後にはほぼ0」にならないのではないか。これから40年後の廃炉というのでは島根は30年後には廃炉にならないのではないか。どこから新設という線を引くのか。

南部 ポイントになる質問だ。どうして政府に責任をとらせるか。すくなくとも再稼働を認めたときの総理大臣が、このプラントの再稼働を認めたということを宣言し、明記することが必要。今のやりかただと、原子力委員会が承認した、住民も首長は金でまるめこまれているからOKというだろう。そうすると責任の所在が明らかでない。はっきりとした国としてのけじめがいる。他人事みたいに責任を転嫁するやりかたは納得いかない。

被害者への補償など

平岡 原発事故の後処理でも、被害者の賠償はどうするのかという話も、なかなか難しい。原発事故の損害賠償保障制度がある。これは上限が1事業所当たり600億円。それ以上の問題は政府が実質的に責任を負う。責任をおうということは、いったん事故があったとき、

国が面倒みるという話ならば、すでにそういう仕組みがあるから責任とっている、といわれかねない。

原発は国策として進めてきたことだ。国が面倒しなければ絶対できない。民間の保険でカバーしようとしたら、保険料は膨大なものになる。それをどうやって整理するのか。

津田 原発事故は民間が保険を引受けられない膨大なリスクなのだ。さっきの40年廃炉でなく新增設の話だ。いま福島で原発事故がおき、審査して許可した基準がだめだったということだ。再稼働は今の法律にもとづいて審査していくということ。私は申請業務（原発以外で）をやってきた、申請は法律（各条項に）に適用していることを書いて、書類はおもに証明する設計図等を添付して申請していた。原発も同じだろう。福島事故以降に原発の法律基準が変わっていないので、これまで許可してきた基準で設置しているので不許可にできる根拠がない。だから地下の断層の有無だけが再稼働の条件になっている。福島事故の原因は未解明だ、私がこのあいだしつこく言ったのは、ちゃんと問題点を明らかにして50キロ圏内の住民の許可、原子炉が隣接していたため隣の原子炉建屋に水素が流入して水素爆発を起こした。原子炉間を隔離する距離をとるなどタガになるような基準を提言していかなければならない。そのためには福島原発の事故の原因の情報を開示しなければならない、健康被害、外部被曝と内部被曝による身体への影響の情報もだしてもらわなければいけない。

稲生 事故の後始末もみえてこないし、放射能の被害、放射性廃棄物の処理についても解決されていない。大事なことは「脱原発」を政府に求めていくこと、国民がそういうことを提言していくことだと思う。提言案にさらに付け加えることがあったら発言してほしい。

民主党の再稼働容認について

井原寿加子 提言を完成させるにあたり、前回再稼働条件について議論が交わされた。再稼働条件の明確化をどうまとめるかという意見があったとおもう。このことは持とう会でコンセンサスをもっておかないと。民主党政権で再稼働を認めたわけだが、容認はいいのか、容認はだめなのか、というところでもめた。このへんが一番大事なところではないかと思う。私は素人なのだが、この提言はすごくいいと思う。

平岡 古くなったのだが、民主党「脱原発ロードマップを考える会」これは党内でも50-60人ぐらいメンバーがはいて、私は事務局長の立場でやった。「遅くとも2025年までの出来だけ早い時期に脱原発を」を提言した。また、脱原発を進めるうえで、こんなことを詰めてやっていかなければいけないのだということも書いた。ここでは再稼働について何もふれていない。当時は再稼働は大きな論点だったが、再稼働するかしないかにかかわらず、おそくとも2025年までに脱原発なんだ、という大きな方針を示して、その枠のなかで考えて行こうということだった。再稼働すべきでないというのなら、25年まで待たなくとも、すぐにでも脱原発でやりましょうということだった。このあと、民主党のエネルギー調査会と政府のエネルギー政策とは、もっとゆるやかになったが、その過程のなかではそういう流れだ。井原県議がいった「再稼働を認めるか否か」は重要な問題であるが、再稼働がだめだといったら、一気に支持者が少なくなる。20年かけてやろうということを含め、過半数以上の賛同者を得たいということで、こういう表現になった。再稼働しないといった

ら、「電気が不足するとか、電気料金が高くなるのじゃないか」という批判が直ぐに出る。できるだけ多くの賛同者を得るためにこういう表現になった。

稲生 民主党がこういう立場を示しているということは重要だ。いま考えているのは、市民の立場でどうするかということだ。

平岡 市民が考えるとき、知っていたほうが良いと考えて、参考までに示した。

稲生 みなさんもこれを参考にして意見を言っていたきたい。

南部 現在準備しているのを加えると現在建設中のものは3基ある。

平岡 工事は終わっている。動かすタイミングを待っている。大間は60%ぐらい進捗している。

南部 民主党がOKをだしている。

平岡 OK だしているというか、止めてないということ。大間については、函館が訴訟をおこして建設中止を求めている。

南部 大間は4号機までであるのか。建設中がどれにはいるのか。これみて唖然としたのだが、よくもたくさん作ったものだ。廃炉にしなきゃいけないものがごまんとある。みんな運転期間を伸ばして稼ごうとしている。40年というのを厳格に守らせないとそのままずるずるいつてしまう。40年廃炉と表裏一体で再稼働の問題がある。再稼働を認めるか、40年廃炉とするか、それを明確化しないと。

40年廃炉は

津田 40年廃炉というのはたしかなのか。

藤川 40年と確定されているんだが、40年再稼働反対の部分がある。地震が30年にある。原発はあるということで、いまの原発については、格納容器の下にコアキャッチャーがあるのだが、日本にはそういうのがない。メルトダウンはどんどんいっちゃう。日本の原子炉の基準にはそのような基準がない。3月11日に原発ゼロになった。電気は足りている。新幹線も、各家庭も、各企業も、従来どおり電気を使用している。電気料があがるということになるかと思うが、そこは国民が負担しなければいけない。

平岡 40年廃炉については、民主党政権のとき、原子力規制委員会を作るときの法律で、規定をかえて40年廃炉原則をとりこんだ。絶対基準ではなく、例外的に40年超もあり得るが、「40年廃炉原則」というのは法律できめられている。

河井 私がみたところ、40年をこえる原発が5基ある。

平岡 それは経過措置の問題だ。

津田 金属材料が放射線で劣化で寿命が40年というデータはないだろう。放射線で機械強度の劣化はありと言われている。設計条件（原発）は強度劣化や疲労を考慮して余裕をもって設計しているから問題ないと言われれば一理ある。あと腐食、金属疲労、腐食疲労などで強度低下する。原子炉は炭素鋼なので、応力腐食割れはないとはおもうが、高温高压なので、腐食疲労はあるのではないか。内部品は、ステンレスで、応力腐食割れが問題になっている。蒸発器のトラブルがある、アメリカでの原発賠償はこのことだろう蒸発器が一番の問題で、耐用年数がとても40年はない。交換するという話は過去にあった。機械強度は計算すれば多分余裕はあるということで、もつということになる。実際はサンプルを採

取して機械強度を確認する必要がある。一番問題は脆性破壊だが常温で脆化していても温度があがると金属に粘りがでてくる。高温で使えば粘りが出てくる（粘りがでると脆性破壊し難くなる）という問題があるが劣化は起きている。40年、30年という寿命の根拠はあまりないのじゃないか。（参考資料「原子炉40年寿命説の出处について」）

稲生 方向としてはひとつはっきりした方向がでてきている。ここでやっておきたいことは、一般市民にたいして提言するというところで、こういう表現でいいか、付け加えることはないかということ。最初に言ったことで、イントロの文章はこれでいいか。

南部 私はいいと思う。

河井 藤村さんの、これまでの歴史はこの前書に圧縮して取り込むのでいいのではないか。

藤村 提言には、こうする、ああすると書いてあるが、実際は長がきめている。首長を選ぶのはみんなだ。だからみんなが原発についてもっと知らなければいけない。「もんじゅ」の廃炉といっても、政府は夢の原子炉といった。だからみんなはいいものだと思うようになる。アメリカは作ったばかりのものを廃炉にしたということはみんな知らない。市民が「もんじゅ」を稼働させてはいけないと裁判をおこして、第一審で勝った。裁判所長が専門家について学んだのだ。みんながほんとのことを知らねばいけない。

なぜ反対の人が抑えられるかということ、「原子力ロビー」といって、世界的に反原発の人を抑える組織ができています。国際原子力機構（IAEA）ですら「原子力ロビー」の筆頭になって、原発事故を矮小化する有様だ。そういう組織ができていたということもしらなければいけない。専門的なことだけでなく、知って主張することが大事だ。もっと市民の啓発が必要だ。

河井 この文書は「これからどうしようか」ということを示そうというものだ。

藤村 この提言をみると、市民を啓発することに触れていない。小泉さんがしきりに「原発ゼロ」といっている。これはいいことだ。小泉さんは、首長の安部さんが決めさえすれば、「原発ゼロ」ができるという。その首長を決めるのは市民だから、やはり市民を啓発していかなければならない。

南部 過去2回やった。こういう問題があるということをやった。いまブログででていますが、みんなにはいかないが、それをつくりなおして。

河井 提言は「こうしましょう」ということ、もっとも大事なことを書いたもので、くわしいことはブログをみてくれ、というのもひとつの考えかたかもしれない。

南部 そうなると、情報の全面開示してくれということになる。なかなかデータがでてこない。やっとこさここまできた。かんじんかなめの問題は電力会社から極秘になっているからできない。技術的な評価をしようとしてもできない。最初の「提言1」（情報公開）はすごく大きい。安全神話でもそうだ。まるめこんで安全神話をつくった。

稲生 今日本当は結論をだしていかなければいけない。南部さんの話したことを再構成してみた。これを検討してみてほしい（文書配布）。削除すべきところなどあれば、言ってほしい。

平岡 安全神話とか利益誘導とか、そういう仕組みが原発の状況を生み出しているという文言をどこかに入れる必要がある。情報公開が大事だ。問題提起はできるのではないか。

津田 話をすすめるのに、「即ゼロ」か「脱原発」か、稲生さんは「即ゼロ」。

稲生 「脱原発」と書いている。軟着陸の感じもでてきている。

井原 再稼働をみとめるか、25年でゼロをめざすのか。40年に廃炉基準を徹底して、30年に廃炉をめざすのか。

河井 私は2030年廃炉と書いた。民主党もそんなことをいったのではないか。

平岡 「2030年代までに原発稼働ゼロを可能にするよう、あらゆる政策手段を講じる」と書いた。民主党のなかには電力総連もあるから、原発維持という人もいる。そういう人たちも一緒になってようやくこぎつけたのがそういう結論だ。

河井 ドイツは2022年までに全廃することをきめた。

平岡 ドイツはずっと前からやっていた。再稼働は別に問題があるから止めるのではなく、定期的に止めている。「2030年や2040年の脱原発」をだしたときは、再稼働ありということになる。再稼働なしなら40年廃炉というのは全然必要なくなる。

南部 全部廃炉だといったら、電力会社はどうして廃炉にするのか。とてもではないが54基を全部廃炉にするとしたら、その財源はどうするのか。誰がだすのか。

平岡 それは国だ。つまり、国民の税金だ。

南部 国家財政を考えると、そんなことできるのか。小泉さんが言っていることは正しいとおもう。トップが方針をだせよ、あとはやっていくよ、ということだ。ほんらいはそれでいいんだ。だから安倍さんが原発なくするよといえればいい。だが言わない。それを言わせるようにやっていかねばならない、

河井 政府がやらねば国民投票をする、となっている。しかし今国民投票をやったら負ける可能性がある。

稲生 行く（再稼働）も帰る（廃炉）も地獄だ。人類に大きな問題を抱えたまま進行していく。悪くすれば人類の滅亡につながるかもしれない。「やめる」ということを決めたくて「廃炉計画」に取り組むことだと思う。

河井 すぐやめるか、ちょっと軟着陸を考えるか、そこを。

井原 それをきめないよ。

南部 もう多数決できめないよ。

稲生 言葉をつけくわえるか、表現をかえるか、書き込んでみた。書き方、表現の問題だ。これが一番重要だ。赤字のところは付け加えたものだ。提言1はこれでいいか。

津田 一番に謝罪の言葉がないというが、東電など。

河井 しいていけば提言2の事故のところだ。

平岡 提言の順番はこれでいいのか。一番言いたいことは提言5に書いてあることで、これを一番最初に書いたほうが良いのではないか。

河井 いきなり原発廃止というと、反発をまねいて、あとを読んでもらえなくなる。

井原 政治的文書でないから、あとのほうがいいかも。

稲生 南部さんの演説をまとめてこの項目をあげた。補足するところがあればあげていくことにしたい。

井原 どんどんやっていけばいいのではないか。

「提言5 原発政策について」 再稼働を認めない原則

藤村 「再稼働容認条件の明確化」とあるが、再稼働を認めないことにしたい。

南部 それをはじめにきめないといけない。再稼働を認めない方針でいくか、認める方針でいくか、これは大方針だ。

稲生 私は再稼働を認めない立場だ。しかし困難もでてくるだろう。じゃそれに目をつぶろうということだろう。

南部 私が一番気にいらぬのは、何でも反対という政党の言い方。反対といってしまつたらもう実もふたもない、それでおしまいだ。だから含みをもたせた。再稼働をみとめながらやってもいいのではないかとした。

稲生 政党と論旨が重なることは仕方がないことだ。

南部 なんでも反対ではないということだ。

河井 私は現実的に考えて、どっちを多くの人が支持するだろうか、と考えた。国民投票で支持がえられなければ、なんにもならない。国民投票に勝てる文書にする必要がある。

南部 わたくしは国民投票に負けるとは思わない。

稲生 国民投票は啓蒙的なところと学習的なことを含む。問題をなげかけて学習していくということもある。そう考えれば負ける予想はでてこないと思う。

藤川 40年がきた。そこが大事だ。もし漏れても、中で漏れるだけだから、そのところをよしとするか。

南部 40年廃炉を厳守するというのを上にもってきて、再稼働容認の条件のところはかわらない。再稼働はやめてしまう、というのなら、どちらにせよ脱原発だから、さわらないというのも一案ではないか。

稲生 あいまいな部分を残していくというのだろう。(赤字の訂正案を読み上げ)

「提言2 原発事故の事後処理について」

平岡 「原発事故の事後処理について」で対象としている原発事故は、福島原発事故か、すべての原発事故か。

稲生 福島に限定しなくてもいい。

南部 ここでは福島のことを言っている。福島の真相究明をきちんとやるのが大前提だ。

藤川 「政府の事故調」が出ている。

平岡 「国会事故調」もある。津波か、地震か。それを今やっているかというのと、やっていない。川内博史(前衆議院議員)が個人的に調査をしているのは知っている。これは津波でなく地震だと。いま政府にしても国会の「事故調」にしても、さらにやっているところはないのではないか。

南部 地震という結論が出たら大ごとだ。地震国だから。

津田 福島原発を考えれば、事故原因も究明されていないから、究明して国民に報告するという言葉にするといい。「政府事故調」「国会事故調」もだしているから、それで逃げられてはいけない。

稲生 ここは「福島原発の事故を究明する」とする。

再稼働しないことを冒頭に

井原寿加子 再稼働するかしないかを一番にやらないと。

南部 決めてくださいよ。

平岡 再稼働を認めるとしても、表現振りはそれを明示しないで逃げる手もある。多数決したら、「再稼働だめ」が 30、「30 年後」が 30、「原発いい」が 40。どれをとるかといったら、「30 年後に脱原発」までにはいいのじゃないか、ということにもなる。経済界や、電気料金などを言う人も「脱原発は将来必要」という方向にまきこんでいくには、「再稼働を仮にやるにしても」という表現がいいかも。

稲生 井原さん、もう一度。

井原寿加子 提言 5 の「再稼働容認条件の明確化」をやめて、「40 年廃炉の原則を厳守する」を最初にもってくる。

井原 (提言 1 にもっていくというのではなく) 提言の順番に考えていこうとしているのだろう。

稲生 強調することがらをマスでかこんだ。

井原 再稼働を認めるかどうかを提言のなかではっきりしてほしいということだ。小泉さんが言っている「即時原発ゼロ」といっているのか、南部さんのいう、再稼働を前提としながら、40 年廃炉にもっていこうとするかだ。

稲生 わたくしは全部ゼロにしたいと考えている。

河井 「脱原発」は少し時間をかける、「即原発ゼロ」はすぐやめる、ということか。

稲生 急進的にすぐ「やめろ」という人は少数かもしれないが、それでは、曖昧になってずっと残っていくだろう。

藤村 私は稲生さんと同じだ。『朝日新聞』さえも再稼働は許されないという社説を出した。日本は地震大国だから、大事故がおこらないとも限らない。絶対に再稼働はいけないと思う。

井原 情報公開して議論をつくして、国民投票をして結論をだす。

河井 われわれの考えは出さないのか。

最後は国民投票で決定する

井原 もちろん出す。結論は国民投票によって決定する。そのことは書いてある。

河井 再稼働しないということを ☆ で書かねばいけないのだろう。しかし反対の人もいるだろうから、国民投票にゆだねる。しかし怖い気がする。

井原 こわくても何でも、これだけ重大な問題は国民投票できめなければいけない。民主主義、国民を信ずることが必要だ。

稲生 私も賛成だ。

平岡 その提言がでても、現実なかなかそのとおりに動かない。多分再稼働がおこなわれる可能性が現実には高い。そのとき、再稼働した場合のことについて何もふれていないというのは、どうかな。原子力規制委員会のありようは問題がある。塩崎が原子力規制委員会に接触したとのニュースがあった。委員会が接触を禁止されるのは、「政府、電力会社」だけでなく、政治家とも接触してはいけないのではないか。「再稼働しない」のみの提言だと、そういう問題を指摘するのが矛盾するような感じもする。

南部 どういう軟着陸が現実的なのか。そういう考え方が必要。

井原 現実問題として再稼働がどんどん進むかもしれない。その問題も考えなきゃいけない。ここは、「原則として原発はゼロだ。かりに事実として事態がすすむとすれば、再稼働については考えなければいけない、できるだけはやく国民投票で原発の方向性をきめなければいけない」という。それがいいかもしれない。理想論はびしっと書いて。それは理想論だ。理想論は即時原発ゼロ。現実として再稼働が動いているし、軟着陸させなきゃいけないし、そうすれば、すこしでもかえていくという努力が必要だ。

南部 再稼働を条件とすれば、規制委員会の審議内容についても徹底的に・・・。

河井 再稼働できないような条件をつけていけば。

井原 50キロ圏内の圏内の了解をえるといえ、ほとんどできなくなる。やるとすればそこにお金をぶちこんで、ということになる。

河井 地元が再稼働を認めないといったら、政府は住民の目の前にカネを積んで、強引に受け入れさせようとするだろう。

津田 さきに別紙でやるといったから発言をひかえたのだが、再稼働には条件がある、別紙をよんでくれと書くといい。

井原 いまのような三段論法でやれば。

河井 提言の文言を言ってほしい。提言5 最初の☆のところ「再稼働は認めない」と書くべきだ。現在は全原発が止まっている、というところからはじまる。

井原 「再稼働は認めない。即時原発ゼロを目指す」とするか、あるべき姿であるとするか。

平岡 玉虫色になる。

稲生 政治の世界でこう考えられている、ということを経験する必要はない。国民の立場でこうしてほしいと言えればいい。

河井 国民がいろいろいるから困る。

再稼働しなければ電気料値上げという

南部 再稼働を認めないといったら、電力会社は電気料金を引き上げるという。それをのむかどうかということになる。そうすると国民は、それなら再稼働が必要だ、となる。必ずそうなる。なんとか軟着陸させないと、やっておれないのじゃないか。しかし再稼働を認めないということできちっとまとめてもいい。再稼働やるのなら、規制委員会の審議内容をきちんとオープンにし、内容を厳しくし、審査をきびしくし、趣旨徹底し、50キロ圏内にも(住民投票を)やって、それで認めよう、ということだ。

津田 福島は他の原子炉に水素がながれた。原子炉を離すということもある。近すぎたのだ。

南部 16,000 トンの使用済み核燃料がプールのなかに眠っている。もしこれを廃炉しようとしたらどうするか。誰があと始末するか。どうやって軟着陸するかを考えてやらないと。

河井 廃炉まで時間がかかることは間違いない。

稲生 考えてやらなきゃならないが、一般市民としてはそういう知見はない。

藤川 3 ページの原発再稼働の基準の厳格化の部分を、再稼働条件を明確化のほうにまとめるといい。そうすると再稼働がものすごく厳しいものになる。

河井 このふたつを一緒にするのだね。

藤川 原発には沸騰式と加圧式がある。旧タイプは沸騰式です。沸騰式は汚染水が直接タービンにまわる型式であり、危険なタイプです。近い将来廃炉になるのは沸騰式ですね。こいう古い型の原発から廃炉にするのなら、再稼働の容認条件ということになる。それなら私は賛成する。

稲生 それはいい。

平岡 新增設は再稼働と関係ないから、そのあとの再稼働の条件としてまとめて議論するほうがいい。

藤川 新增設はしないというのは ☆ にするといい。

平岡 そうしたとして、再稼働をどうするか。

強引に再稼働したら

井原 ひとつレベルをかえてはどうか。再稼働はしない、一刻も早く原発はゼロにする。それを原則論として書いて、少しレベルをかえて、現実のいまの世の中にたいする提言として、再稼働が行われる場合はこういうふうにと。

平岡 再稼働という概念は、止まっているものを動かすということだ。一般的にいえばすべての原発を停止するのがほんとは正しい。いま動いているものをずっと動かすというのなら、再稼働という概念あてはまらない。いまは原発はどれもうごいてないのだろうか。

藤川 2基うごいている。

井原 それは現実だ。

藤川 2基しかうごいてないのも・・・。

平岡 概念としてはそれを軸に考えていかねばならないのか。

南部 鹿児島県川内2基、だいたい40年でいうと10年ぐらい。佐賀の玄海は3・4号機。これが20年、40年廃炉とすると。福井の高浜は3・4基、これが10年、愛媛の伊方1基だけ、20年、泊はできたばかりで34年、福井県の大飯は3・4号機が約10年。再開をまくろむ原発は良心的とはいえないが、安心とおもわれるものだけをまず出しているということは事実。40年廃炉寸前のやつを再稼働することはしていない。このへんをみて、軟着陸すべきかなと思う。固執するようになったけれど。

井原 両方とりいれてやれば。今日文章まで決着するのは無理だ。

南部 もう私はこれでおしまいにして、ふたりで原案をつくっていただいて。私は全然問題がない。提言として、一番大きいところを□書きにするのもいい。文章は表現をどうするかだ。できるだけ丁寧な表現にするといい。内容についてもうすこしもんで。

稲生 最後に井原さんが提言した国民投票にするということにしてはどうか。脱原発をめざすのだが、最後に国民投票して、と結んだらどうか。

井原 それで作ってもらったらどうか。また意見がでますよ。

「提言1 原発関連情報の公開について」

稲生 提言1はすんだ。赤字のとおりでいいか。

平岡 真相究明結果を国民に「報告する」というのでなく、「公開する」とか「公表する」

としたほうがいい。

稲生 環境汚染のところでは「全面公開」とする。国民に「報告する」でなく、国民に「開示する」でいいか。公表だろう。提言2で原発事故について、廃炉計画・・・とした。トリチウムの処理についての説明は必要か。

河井 説明聞いたがわからなかった。1行ぐらいで書けないか。

南部 1行ではかけない。2行ぐらいか。

稲生 福島第一原発の廃炉計画を国民に周知せしめる。

河井 これは福島のことを言っている。

稲生 私は一般的に、と考えている。だいぶん後退だ。

「提言2 原発事故の事後処理について」

平岡 上のほうは「廃炉計画の立案」となっている。廃炉計画はできてない、廃炉をきめただけだ。

河井 「廃炉計画を作成し、国民に周知せしめる」。

井原 「策定」だろう。

南部 分社化の問題は書かなくてもいい。大きな問題ではあるが。

河井 福島第一原発の分社化は削除する。

稲生 5・6炉の活用計画とは。

河井 5・6号機には入れるのか。

南部 廃炉計画をやっていくうえでも、ここが重要。5・6号機には入れる。

津田 5・6号機は問題ない。燃料とりだしのための計画炉にするというのは新聞に出ていた。

南部 有効に活用すればいい。どういう手順でどうやっていくか。

平岡 活用計画ではなく、廃炉をするために5・6号機を使うということか。

南部 これはなくてもいい。

平岡 福島第一原発の廃炉計画のところでやればいい。

津田 廃炉計画のところで、5・6号炉をつかってやる、とすればよい。

井原 活用計画と書くだけでは、また使うのか、ということになる。

平岡 5・6号炉をつかって1-4の廃炉に利用するというのか。

南部 1-4号炉はもう大変だ。今後のほかの原発の廃炉の研究をする材料に使うという意味だ。

河井 「5・6号炉を今後の廃炉計画のモデルとして利用する」ということか。

南部 それでいい。

「提言3 放射性廃棄物の処理について」

稲生 マスのなかの文は了承。「日本のプルトニウムの処理」と書いている。

平岡 ふつうは「核燃サイクル」という。

南部 「核燃サイクル」は（朝日新聞の記事をしめして）これに尽きる。言葉で説明したら大変になる。この前にもだした。

河井 これを参考資料につけ加えるか。前回の記録を参考にせよ、と書けばいい。

稲生 六ヶ所村再処理工場をとりこわすといったら。

南部 六ヶ所村は目をむくね。やっとできたというところだ。問題はセキュリティの強化というのは、テロ攻撃をふせぐにはどうするかとか、そういう対策をきちっと講じなさいよということだ。日本人は平和ぼけしている。非常に甘い。アメリカは嚴重警備だ。それが当たり前だ。全然セキュリティゼロだ。

平岡 再処理するということはプルトニウムを出すということだ。再稼働しないというのなら再処理など必要ない。

南部 すぐ固化して埋めるというのが正しい。

河井 六ヶ所村へもっていかないで、各原発で処理するということか。

南部 欧米の技術をいれて、固化して中間貯蔵庫にためておく。それにたいして、「朝日」の提言では、各プラントにそういう貯蔵施設をもうけて保存しなさい、ということだ。今は全部プールにためている。

河井 六ヶ所村にもっていくのと、各原発でやるのと、どちらがいいのか。

南部 再処理工場が動くようだったら、そうするといい。

藤川 燃料棒が5ミリへっていく。今は東海へやって、それから、紙でも放射線は防げるのだから。

稲生 セキュリティ強化という言葉に矛盾を感じず。再処理の方法を考えなければ、という時だろう。

河井 各原発がそれをやれるかどうか。

津田 停止していてもやらにゃいけん。政策のところへいれてもいい。セキュリティの話は原子炉、六ヶ所村、送電設備、それをちゃんと確保しないとイケない。

河井 各原発で処理するのなら、六ヶ所村はいらない。

津田 現にすでに六ヶ所村に入っている。

平岡 核燃料サイクルから撤退するところを ☆ で書くべきだ。それを書くと、六ヶ所村のセキュリティは放射能を盗まれたり、守るかということになる。

南部 セキュリティの問題は、六ヶ所村だけでなく、すべての原発にいえること。

平岡 放射性物質の処理の問題、六ヶ所村とか他の原発にある放射性物質のセキュリティを強化する、と書けばいい。

稲生 これはあえて触れないことにするか。

平岡 六ヶ所村の処理工場だけでなく、原発にある放射性物質のセキュリティを強化するとすればいい。

南部 核廃棄物の保管方法・・・

河井 提言3のなかの重要な問題だ。現在ある放射性物質をどうするかということを示しておいて。

南部 『朝日新聞』のシンポジウムでは具体的なことは全然でていない。どこへ保管する、埋めるとか。保管の問題とセキュリティの問題としたほうがいいかもしれない。提言の数をふやしてもいい。

「提言4 被災者への補償について」

(赤字の修正案文をよむ)

河井 「血の通った保障策」というのがあいまいで、やったよ、やらないよ、という議論になる。自分の家にいつ戻れるのかは大変な問題だ。

稲生 まだ苦勞している人がものすごくいる。明確にしなければいけない。

平岡 以前、「何十年もむりだ」ということを言ったひとが、袋だたきにあった。何十年というのが真実の話であって、時期を明確にせよといったら、30年後としかいえない。それでもやっぱりナアナアでごまかすより、ちゃんとやった方がいい、ということか。

井原 それは事実を言った方がいい。

南部 事実が明確になると。チェルノブイリの状態をみれば。きちんときめて、ここははっきりとダメと。その住民にはきちんと補償するというしかない。

平岡 30年後、50年後しかないとする、生活環境を補償するだけではやれない。住まないことを前提とした補償でない。

河井 すべてを含めた補償でないといけない。

平岡 「生活環境を補償する等の計画を公けにする」これでいいか。

南部 一応ここでうちきって、書き換えて、今日出さねばならないということではないから。

河井 大きなところで意見がまとまっておれば、できると思う。

稲生 現実には早くなんとか国民にしらせて結論をださねば、はやく提言をしたい、というところだ。

南部 提言の第1番を出すというのでいい。今日言ったところでかなりまとまっているから、早く出したらいい。

井原 ざっと書いて、意見をみなさんにもとめればいい。

河井 一番大切なところをたしかめておく。原発政策の最初に☆をくわえて、原発の再稼働は認めないとする。その次の☆で、状況によってどうしても再稼働することになったときは、コレコレのことをする、というのならできる。国民投票をどこにおくかだ。以下のことは再稼働を認めた場合のことだ。

井原 何度も議論したから、つくってみたらいい。私も南部さんも意見を言うから。

「提言6 エネルギーと原子力に関する国際協調について」

稲生 そういうことにして、提言6。

河井 ここで一番言いたいのは、「国立研究所」をつくって、世界的な頭脳をあつめて研究するということだ。

稲生 これは異論がないと思う。

河井 3つ目の赤い☆がそのままのこる。チェルノブイリ、福島原発の事故のことがあげてあるが、これを無視して研究するのではいけないという意味であげた。

平岡 国民投票について「政府が方針をかえないなら国民投票」とあるが、脱原発の方針をだしたら国民投票はいらないということか。原発存続か廃止か、どっちかというのを素直に聞くのが国民投票だろう。限定した国民投票を「国民投票」としていいのか。原発政

策について「原発のありかたについて、国民投票を実施し」というのがいい。

南部 原発存続の可否について国民投票をするべきだ。

井原 いろんな意見があるが、原発をこれから続けるのかどうかを、国民投票できめるといふことだ。

河井 政府が原発を止めようと言ったら国民投票する必要はないと考える。

平岡 そうすると、誰が国民投票をやることをきめるのか。政府が脱原発といったとき、原発は必要という人もいる。かれらが国民投票をせよ、ということになる。その場合はやらない、とは言えない。

河井 ああ、逆の場合から国民投票を求めることもあるというのか。

井原 住民投票、国民投票は平場で公平にどっちにするかを市民、国民が判断するものだ。それによって決めるべきだ。

藤川 4ページのところで「チェルノブイリ、福島原発事故による汚染水などの災害を除去するための研究」とすればいい。

平岡 「災害」というより「被害」のほうがわかりやすい。

津田 チェルノブイリも福島もいらない。

河井 本当はいらないのだが、チェルノブイリ、福島に触れたくない人がでてくると思う。他にもちよくちよく事故がおこっている。これだけはおとしてはいけない、ということでチェルノブイリ、福島と書いた。もう汚染してしまったからしかたがない、ではすまされない。家に帰りたい人がいっぱいいる。それを無視するわけにはいかない。「数十年は戻れないよ」と言い切れるほど、精一杯除染の努力をしたとはとてもいえない。

稲生 この提言文書をこのまま出すわけにはいかない。もう一度やってはどうか。

平岡 都知事選挙、山口県知事選挙はおわってしまう。来週でもやったほうがいいという話になる。

南部 臨時にやるか。原発問題は多岐にわたっていて、書きにくい。

稲生 それでは、この続きの点検は、本日の出席者の数人でやってもらふことにしよう。

「結び」について 特に異論なし。

発言した人(50音順)

稲生	慧	岩国市岩国
井原	勝介	岩国市今津
井原	寿加子	岩国市今津
河井	弘志	周防大島町日前
津田	利明	岩国市桂町
南部	博彦	岩国市平田
平岡	秀夫	岩国市楠町
藤川	俊雄	岩国市平田
藤村	英子	周防大島町下田



原子炉 40 年寿命説の出处について

2014.1.31 津田利明

国会事故調の本文に 40 年寿命説の根拠になったのではないかと思われる文章を見つけましたのでご報告致します。

保安院が福島原発事故の発生・拡大に設備の影響がなかったかと「意見聴取会」で検討し「影響がなかった。」と結論をだしていました。その抜粋が以下の内容で国会事故調はこの結論を批判しています。

検討された事象の項目としては納得できるものですが、その検討内容は評価できるものではありません。実際に専門家も聴聞会で批判しています。

結論は40年稼働の1号機、30年稼働の2、3号機は「設備保全で設備の健全性が維持できていることを確認している。」という実際の設備は見ることも触ることも出来ない現状で、これまで保全して運転した実績評価のみの結論です。

40年廃炉はこの結論を採用し、40年を超える実績はないので40年廃炉説になったのではないかと推測されます。

寿命予測は大変難しいのですが普通ですと、①金属組織を沢山採取し顕微鏡検査をする。②出来れば金属サンプルを切り取って衝撃試験・引っ張り強度試験③熱サイクル、荷重負荷サイクルの調査などを行って評価するのですが、そんなことは一切していないので十分な検討をしたとは言い難いものです。

事象の中に「⑤照射誘起型応力腐食割れ」というのがありました。初めて知りました。恐らく実際に経験した事象だと思います。応力腐食割れは3つの因子、①引っ張り応力②原因物質③温度が揃って起きると定義されていて、金属材質により特定の原因物質がありません。「照射誘起型応力腐食割れ」と結論されたのは②原因物質が特定できず放射線以外になかったためではないかと推察されます。

国会事故調本文抜粋

1) 設備の劣化は事故の発生・拡大に影響しなかったとする保安院の見解(78ページ)

①応力腐食割れ、②配管減肉・腐食、③低サイクル疲労割れ、④中性子照射脆化、⑤照射誘起型応力腐食割れ、⑥2相ステンレス鋼の熱時効、⑦電気・計装品の絶縁低下⑧コンクリートの強度低下及び遮蔽能力低下の8項目の劣化を取り上げた。

①と②は1号機の40年高経年化技術評価、2、3号機の30年高経年化技術評価は「現状の保全活動の継続により設備健全性が維持できていることを確認済み」であるとして、それ以上の検討はしていない。

⑥と⑦と⑧は地震発生時における経年劣化による影響は考えがたいと、検討対象から外した。意見聴聞会で多少とも検討されたのは③、④、⑤のみであった。

③低サイクル疲労割れについては、例えば1号機の原子炉の再循環ポンプ出口弁（弁箱）の場合、地震動による疲れ累積係数は「0.000」とされ、全く影響ないとされた。

④中性子照射脆化、⑤照射誘起型応力腐食割れについても、ほとんど影響ないとされた。

2) 意見聴取会における反対意見と報告書の修正（79ページ）

専門家の強い反対意見「仮に過去の高経年化技術評価を認めるとしても、そのことから言えることは、単に、経年劣化による影響があったという証拠はこういう手法で得られなかったということだけであって、影響があったとは考えたいとか、劣化事象が発生拡大の要因になったことはないと考えられるというまとめをされるということは、論理的におかしい」（第4回議事録52ページ）「それぞれが経験した圧力、それから、温度などといった環境条件の履歴が分からない以上、高経年化の影響がなかったと結論するのは非常に早計であって」「こういう断定的なものの言い方は少し避けた方がよろしいのではないか」（第4回議事録53ページ）